

小学校 5・6年



『クローディアの秘密』

毎日(まいにち)が退屈(たいくつ)で、長女(ちやうじよ)は損(こ)ばかり。嫌(いや)気がさした11歳のクローディアは、弟(いもうと)を誘(いざな)って家出(いせで)をし、メトロポリタン美術館(びいじやうくわん)の中(なか)にかくれ住(す)んだ。今(いま)と違(ちが)った新しい自分(おのれ)になりた(た)いという願(ねが)いを胸(むね)に、あるなぞ解(と)きに夢(ゆめ)になる。

E.I.カニグズバーク 作
松永ふみ子 訳 岩波書店



『シャーロットのおくりもの』

子(こ)ブタのウィルバーは、小(こ)さく生まれて殺(ころ)されそうになったところを農場(のうじやう)の娘(むすめ)ファーンに助けられたが、次(つぎ)は、ハムにされてしまうことに。今度は、友(とも)達のクモ(こも)のシャーロットが奇跡(きせき)を起こして救(すく)ってくれる。命(いのち)と友情(ゆうじゆう)の物語(ものがたり)。

E.B.ホワイト 著
ガス・ウィリアムズ 絵
さくまゆみこ 訳 あすなろ書房



『チョコレート工場の秘密』

とても貧乏(ひんぼう)な家の男(おとこ)の子チャーリーは、幸運(こうふん)にも板チョコ(いたちょこ)に入(はい)ったくじを引き出(ひ)て、あこがれのチョコレート工場(こうじやう)を見学(けんがく)できることに。招(まね)かれた5人(ごにん)の子どもたちが工場(こうじやう)の中で自(みづか)にするものとは…。辛口(しんこう)ユーモアあふれる物語(ものがたり)。

ロアルド・ダール 作
クエンティン・ブレイク 絵
柳瀬尚紀 訳 評論社



『トムは真夜中の庭で』

夏休み(なつやす)の間、おばさん(おばさん)の家に預(あづか)りられたトムは、真夜中(まよなか)に古時計(ふるどけい)が13回鳴(な)るのを聞(き)いた。すると、家の裏口(うらのぐち)に昼間(ひるま)にはなかった庭園(ていえん)があらわれ、トムは昔風(むかしふう)の服(ふく)を着(き)たハティという少女(しょうじよ)に出会(であ)う。トムとハティは友(とも)だちになって…。

フィリパ・ピアス 作 高杉一郎 訳
スーザン・アインツィヒ 絵 岩波書店



『二年間の休暇』

夏(なつ)の休暇(きゅうか)にヨットで船旅(ふねたび)を楽しむはずだった寄宿学校(きふしやうがく)の少年(しょうねん)たちは、大(お)人を乗(の)せずに船出(ふねで)してしまい、無人島(むじんとう)に流(なが)れる。船(ふね)はこわれ、助(たす)けはのぞめない。少年(しょうねん)たちは無人島(むじんとう)で自分(おのれ)なりに生活(しやうか)しようと力(ちから)を合わせ、困難(くわんなん)に立ち向(むか)う。

ジュール・ベルヌ 作 朝倉剛 訳
太田大八 画 福音館書店



『ふたりのロッテ』

夏休み(なつやす)みの林間学校(りんかんがく)で出会(であ)ったロッテとルーイゼ。ふたりは髪型(かみがた)以外(いそ)すくだった。自分(おのれ)たちがふたごの姉妹(せいてい)であること(こと)を知(し)ったふたりは、別(わか)れた両親(りやうしん)を仲直(なかつち)りさせようと考(い)え、入(い)れかわりを計(はか)算(さん)する。

ケストナー 作 高橋健二 訳
トノヤー 絵 岩波書店



『魔法使いのチョコレート・ケーキ』

魔法(まほう)はへただがおいしいチョコレート・ケーキを作る魔法使(まほうつかい)いが、子(こ)どもたちを招待(しょうたい)してパーティーを開(ひら)こうとしても、だれ(だれ)も来(き)やらない。そこでりんごの木(き)を相手(あいて)にお茶会(ちやかい)を開(ひら)くこと…。他(ほか)7編(へん)の物語(ものがたり)と詩(うた)2編(へん)を収録(しゆく)した短編集(たんぐんしゅう)。

マーガレット・マーヒュー 作
シャーリー・ヒュース 画
石井桃子 訳 福音館書店



『モモ』

ある日(ひ)モモの住(す)む町(まち)に灰色(はいいろ)の男(おとこ)たちがやってきて、人々(ひと)の時間(じかん)を盗(ぬす)むようになる。心(こころ)を惑(まど)わされた人々(ひと)は、家族(かぞ)や友(とも)達(だ)との時間(じかん)そっちのけで、休(やす)みなく働(はたら)くようになってしまう。モモは盗(ぬす)まれた時間(じかん)を取り戻(もど)そうと灰色(はいいろ)の男(おとこ)たちに立(た)ち向(むか)う。

ミチャエル・エンデ 作 大島かおり 訳 岩波書店



『ライオンと魔女(ナルニア国ものがたり1)』

戦争(せんそう)をさけるために田舎(いなか)へ預(あづか)りられた4人(よにん)の兄(あに)たちは、古いタンス(たんす)のむこうの不思議(ふしぎ)な国(くに)ナルニアに入り込(こ)んでしま(ま)う。恐(おそ)ろしい白(しろ)い魔(ま)女(じよ)に支配(しはい)された国(くに)を取り戻(もど)すため、真(ま)の王(おう)アスランととも(とも)に戦(いくさ)う4人(よにん)の冒険(ぼうけん)物語(ものがたり)。

C.S.ルイス 作 瀬田貞二 訳
ポーリン・ペインズ 絵 岩波書店★



『絵で読む広島原爆』

人類(じんるい)最初の原子爆弾(げんしぼくだん)が投下(とうか)された広島(ひろしま)の町(まち)を、生き残(のこ)った人々(ひと)の証言(しやうげん)をもとに描(え)いた絵本(えほん)。原爆(げんぱく)がなぜ作(つく)られ、なぜ広島(ひろしま)に投下(とうか)されたのか(か)が、わかりやすく解説(かいせつ)されている。被爆(ひばく)後(ご)50年(ねん)間の核(かく)に関するできごと(こと)もまとめられている。

那須正幹 文
西村繁男 絵 福音館書店



『アラスカたんけん記』

学生時代(がくせいじだい)にアラスカに魅(め)了(りやう)された著者(しやくしや)は、カメラマンとなり再(また)びアラスカへ。カヌーで氷河(こおりがは)の崩壊(ほうかい)に遭遇(そうぐう)したり、カリブーの群れ(ぐれ)を追(お)いかけて雪道(ゆきみち)をひたすら歩(ある)いたり、大自然(だいてん)の中で奮闘(ふんと)した体験(たいけん)を臨場(りんぱう)感(かん)あふれる写真(しやうしん)とともにしる(しる)記(き)。

星野道夫 文・写真
福音館書店



『カワセミ 青い鳥見つけた』

「青(あお)い宝(たから)石(いし)」といわれる美(うつく)しい野鳥(やちょう)カワセミ。日本中(にっぽんじゅう)に生息(せいしき)するが、な(な)かなか見(み)ることができな(な)いその姿(すがた)を数多(かずおほ)くの写(しや)真(しん)で紹介(しょうかい)。

カワセミに魅(め)せられて写(しや)真(しん)家(か)とな(な)った著者(しやくしや)による、水(みづ)中(ちゅう)での狩(かり)の瞬間(しゆんかん)をとらえた写(しや)真(しん)がすばらしい。

嶋田忠 文・写真
新日本出版社



『わきだせ!いのちの水 日本伝統の上総掘り井戸をアフリカに』

水(みづ)くみに苦勞(くろう)しているアフリカ(ふりとびと)の人々(ひと)の役(やく)に立(た)ちたい。交通事故(こうつうじく)にあったこと(こと)をきっかけに、日本(にっぽん)の伝統技術(でんとうぎじゆつ)「上総掘り(じやうさうほり)」を応用(おうよう)し、現地(げんち)の人々(ひと)を指導(しうどう)していつしよに井戸(いど)を掘(ほ)る大野(おの)さん。開発途上国(かいはつしやうこく)で井戸(いど)を掘(ほ)り続ける大野(おの)さん(さん)の活動(かどつ)を紹介(しょうかい)する。

たけたにちほみ 著 フレーベル館



『わらしべ長者 日本民話選』

びんぼうな若者(わかしや)が手(て)に入(い)った一本(いっぽん)のわらが、いろいろなもの(もの)と交換(こうかん)されていくうち、ついには大金持ち(おおかねもち)になるお話(おはなし)「わらしべ長者(わらしべちやうしや)」をはじめ、劇作家(げきさくしや)である著者(しやくしや)が、民話(みわたり)の語り口調(かたぐち)を生かして再話(さいわ)した民話集(みわたりしゅう)。「かにかむかし」など22話(わたり)を収録(しゆく)。

木下順二 作 赤羽末吉 画
岩波書店



●小学校5・6年

『クマのプーさん』…A.A.ミルン 作 石井桃子 訳 E.H.シェパード 絵 岩波書店★

『のっぽのサラ』…パトリシア・マクラクラン 作 金原瑞人 訳 中村悦子 絵 徳間書店★

『バッテリー』…あさのあつこ 作 佐藤真紀子 絵 教育画劇★

『ムーミン谷の彗星(ムーミン全集1)』…トーベ・ヤンソン 著 下村隆一 訳 講談社★

『ローワンと魔法の地図』…エミリー・ロッダ 作 さくまゆみこ 訳 佐竹美保 絵 あすなろ書房★

『床下の小人たち』…メアリー・ノートン 作 林容吉 訳 岩波書店★

『大きな森の小さな家』…ローラインガルス・ワイルダー 作 恩地三保子 訳 ガース・ウィリアムズ 画 福音館書店★

『霧のむこうのふしぎな町』…柏葉幸子 作 杉田比呂美 絵 講談社

『命のバトンタッチ』…今西乃子 著 岩崎書店★

『ウィロビー・チェースのオオカミ』…ジョン・エイケン 作 こだまともこ 訳 パット・マリオット 画 富山房★

「家読(うちどく)」のススメ

「家庭ふれあい読書」を意味する「家読(うちどく)」は、「家族みんなで読書」することで家族のコミュニケーションを深める」ことを目的とした読書運動です。「子どもと本をつなぐ・子どもの本でつながる」そんな素敵なひとときを過ごしてみませんか。各ご家庭に合った方法で、本に親しみましょう。

- 対象学年は目安です。シリーズや続編のある作品には、出版社名に★印がついています。
- ここで紹介する本は、千葉県内の図書館司書が所属する、千葉県公共図書館協会が選んだものです。
- このリーフレットは千葉県教育委員会のホームページからダウンロードできます。非営利目的に限り、複製・配付ができます。

発行／千葉県教育庁教育振興部生涯学習課

〒260-8662 千葉市中央区市場町1番1号 TEL:043-223-4072 FAX:043-222-3565

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shougaku/dokusho/index.html>



保護者の皆様へ

100冊

友だち できるかな?

図書館司書が選んだ

(小学生向け)

子どもに読んでほしい本100選

千葉県教育委員会

～「子どもと本をつなぐ」・「子どもの本でつながる」読書活動～

読書習慣を身に付けるためには、子どもが本の楽しさや魅力を感じる機会が必要です。本に触れるきっかけがあり、手を伸ばすと好きな本や調べたい本がある。「子どもと本をつなぐ」取組や読書環境が本好きの子どもを育てます。また、社会には、読書の大切さを知り、子どもの健やかな成長を願う人が多くいます。その人々がもっている知識・情報・技能・思い等は多様です。そうした大人同士や大人と子どもが読書活動でつながる、すなわち、「子どもの本でつながる」ことで生まれる効果は計り知れません。

ここに紹介する本は、千葉県内の図書館司書が、子どもたちやご家族の方にぜひおすすめしたい本として選んだものです。ご家庭で過ごすひとときにも、お子さんと一緒に本を読んでみませんか？ お子さんとの絆を深める大切な時間となり、保護者の皆様も読書の楽しさを改めて発見できるのではないのでしょうか。

小学校 1・2年



『おいしいれのぼうけん』

ミニカーのとりにこでけんかして、保育園(えん)の押入れ(いしり)に入れられたさとしとあきら。暗(くろ)い押入れ(いしり)に怖(こ)いねずみばあさんが現(あら)れ、人(ひと)は手(て)をつないで夜(よ)の町(まち)を逃(に)げ回(まわ)る。次々(つぎつぎ)とかわる場面(ばんめん)と一人(ひとり)の大冒険(だいぼうけん)が読み応(お)えたつぼりの絵本(えほん)。

ふるたたるひ、たばたせいとい 作
鎌心社



『なぞなぞのすきな女の子』

なぞなぞ(なぞなぞ)の大(おほ)ききな女(おんな)の子(こ)が、ある日(ひ)なぞなぞ遊び(あそび)の相手(あいて)を探(さが)しに森(もり)へ出(で)かけると、お腹(はら)をすかせたオオカミ(おおかみ)にぱったり出会(であ)う。女(おんな)の子(こ)はオオカミ(おおかみ)になぞなぞを出す(で)すが、オオカミ(おおかみ)はな(な)かなか当(あた)てられない。賢(さとし)い女(おんな)の子(こ)とオオカミ(おおかみ)のかけあ(か)いが楽し(たの)しい物語(ものがたり)。

松岡享子 作
大辻瑠子 絵 Gakken



『はじめてのキャンプ』

小さい女(おんな)の子(こ)なほちゃん(なほちゃん)は、大きい子(こ)たちと一(いっ)緒(しょ)に初(はじめて)めのキャンプ(キャンプ)に連れて行(い)ってもらう。「重(おも)い荷物(もつ)を持(も)つ」「絶対(ぜったい)泣(な)かない」などの約束(やくそく)を守(まも)ろうと、背(せ)伸び(のび)をして精(せい)一(いつ)根(こん)張(は)るなほちゃん(なほちゃん)。キャンプ(キャンプ)の楽し(たの)しみも教(おし)えてくれる本(ほん)。

林明子 作・絵
福音館書店



『番ねずみのヤカちゃん』

ドさん夫婦(ふうふ)の家(いえ)で4匹(よっぴ)の子ねずみ(ねずみ)を育て(そだて)るお母さん(おはは)。人(ひと)に気(き)づかれずに静(しず)かに喜(よろこ)ぶための知恵(ちえ)を歌(うた)にして教(おし)えるが、末(すえ)の子ねずみ(ねずみ)ヤカちゃん(やかちゃん)は、とにかく声(こゑ)が大き(おほ)くて、ハラハラさせられ(させ)られつなし。思(おも)わず声(こゑ)に出(で)して読(よ)みたくなる一冊(いっさく)。

リチャード・ウィルバー 作
松岡享子 訳 大辻瑠子 絵 福音館書店



『みどりいろのたね』

えんどう豆(まめ)のたね(たね)といっしよに、みどり色(いろ)のあめ玉(たま)も埋(うめ)めてしま(ま)ったま(ま)あちゃん。土(つち)の中(なか)でたね(たね)たちとあめ玉(たま)がけんかをはじめて…。たね(たね)たちVSメロン(めろん)あめ土(つち)中(ちゅう)での攻防(こうぼう)戦(いくさ)には、思(おも)わず笑(わら)ってしま(ま)う。

たかどのほうこ 作
太田大八 絵 福音館書店



『おおきくなりすぎたくま』

ジョニー(ジョニー)は森(もり)でこぐま(くま)を見(み)つけて家(いえ)に連(つ)れて帰(かえ)るが、こぐま(くま)は大(おほ)きくなり煙(えん)や納屋(なや)を荒(や)らすようにな(な)った。そこでジョニー(ジョニー)はくま(くま)を森(もり)に帰(かえ)そうとする。ジョニー(ジョニー)とくま(くま)の交流(こうりゅう)を描(え)いた心温(こころぬ)まる絵本(えほん)。

ランド・ワード 文・画
渡辺茂男 訳 ほるぷ出版



『ちいさいおうち』

ちいさいおうちは、自然(しぜん)に恵(めぐ)まれた田舎(いなか)の静(しず)かな丘(かみ)で幸(さい)せな時(とき)を過(すご)していたが、次第(しだい)に周(まわ)りは大(おほ)都会(たい)にな(な)っていく。考(かんが)え抜(ぬ)かれた構図(こうず)と美(うつく)しい色調(しきてう)で、ちいさいおうち(ちいさいおうち)の気持(きもち)とともに時(とき)の流れ(ながれ)が感(かん)じ取(と)れる絵本(えほん)。

パージニア・リー・パートン 文・絵
石井桃子 訳 岩波書店



『ひとまねこざるときいろいぼうし』

ひとまね(ひとまね)が大大(おほおほ)きなおさるのジョージ(ジョージ)は、黄色(きいろ)い帽子(ぼうし)のおじさん(おじさん)に連(つ)れられ、アフリカ(アフリカ)から船(ふね)で町(まち)にやっ(や)って来(き)た。ところが、持(も)ち前の(さきまの)好(こう)奇(き)心(しん)から次々(つぎつぎ)と騒(さわ)ぎを引(ひ)き起(おこ)す。いつ(いつ)も明(あ)るく元(もと)気(き)いっ(い)っぱい(い)のジョージ(ジョージ)の姿(すがた)が子(こ)どもたち(たち)の共感(きんかん)を呼(よ)ぶ。

H.A.レイ 文・絵
光吉夏弥 訳 岩波書店★



『ペレのあたらしいふく』

ペレ(ペレ)は、自分(おのれ)のこひつじ(こひつじ)の毛(け)を刈(かり)り取り、新(あらた)しい上着(うわぎ)を作(つく)ることにした。糸(いと)を紡(紡)ぎ、染(ぞ)め、服(ふく)に仕立(しだて)てるまでを、お手伝(てづか)いといひきかえに大人(おとな)に協(きょう)力(りき)してもら(もら)う。大人(おとな)達の見守(みまも)り中(ちゅう)、自分(おのれ)の力(ちから)で新(あらた)しい服(ふく)を手(て)に入(い)れたペレ(ペレ)の清々(すがすが)しい達成感(たっせいかん)が描(え)かれる。

エルサ・ベスコフ 作・絵
おのであゆりこ 訳 福音館書店



『あおい目のこねこ』

元気(げんき)なこねこ(こねこ)がねずみ(ねずみ)の国(くに)を見(み)つけに旅(たび)をする。途(みち)中(ちゅう)、魚(うしほ)や黄色(きいろ)い目(め)のこねこ(こねこ)たちに会(あ)い、青(あお)い目(め)をばかにされたり、意地悪(いぢあく)をされたりするが、「なんでもないさ」とつき進(すす)み、つい(つい)にねずみ(ねずみ)の国(くに)を見(み)つける。こねこ(こねこ)と一(いっ)緒(しょ)に冒険(ぼうけん)する気(き)分(ぶん)を味(あじ)わえる物語(ものがたり)。

エゴン・マチーセン 作・絵
せたていじ 訳 福音館書店



『エルマーのぼうけん』

どうぶつ島(しま)へと冒険(ぼうけん)の旅(たび)に出(で)たエルマー(エルマー)は、知恵(ちえ)を使(つか)って、トラ(トラ)やライオン(ライオン)など恐(おそ)ろしい猛獣(まうじゆう)を出(で)しぬぎ、と(と)らわれ(われ)のりゅう(りゅう)を助(たす)け出す。半世紀(はんせいき)近く読(よ)み継(つぎ)がれる幼(こ)年(ねん)童話(どうわ)。

ルース・スタイルス・ガネット 作
ルース・ワリス・マン・ガネット 絵
わたなべしげお 訳 福音館書店★



『きえた犬のえ(ぼくはめいたんてい1)』

探偵(たんてい)のネー(ねー)は、友(とも)達のアニー(アニー)から自分(おのれ)がかいた「犬(いぬ)の絵(え)」をさがしてほ(ほ)しいと頼(たの)まれる。きえた犬(いぬ)の絵(え)をみつけるため、小(こ)さなヒト(ひと)から事件(じけん)を解決(かいけつ)していくネー(ねー)。謎解(めいげ)きの面白(おもしろ)さも楽しめる作品(さく品)。

マージリー・W・シャーマット 文
マーク・シモン 絵
光吉夏弥 訳 大日本図書★



小学校1・2年

『なぞなぞのみせ』

50問のなぞなぞが楽しめる絵本。女の子がおばあちゃんと買い物をしている文房具屋やケーキ屋などの店内の絵を手がかりに、なぞなぞを解くことができる。丁寧に描かれた絵は探し絵としても楽しめ、文章では表されていない二人の買い物の様子も感じられる。

石津ちひろ なぞなぞなかざわくみこ 絵
偕成社

『たんぽぽ』

かわいらしく、きれいなだけではないたんぽぽの生態がよくわかる。根はどうなっているのだろう。花にはどんな秘密があるのだろう。ふだん何気なく見ているたんぽぽの知恵やたくましさを感じ、新たな発見がある。あなたは「たんぽぽをっていますか。」

平山和子 文・絵
北村四郎 監修
福音館書店

『王さまと九人のきょうだい』

悪い王さまの出ず難題を、九人の兄弟がそれぞれ長所をいかして乗り切り、王さまをこらしめる物語。9回の繰り返し子どもに喜ばれる中国の民話絵本。

赤羽末吉 絵
君島久子 訳
岩波書店

『子どもに語る日本の昔話』

その昔、田畑裏を囲んで語られたような味わいのある昔話。地域特有の語り伝え方や方言も入り、一日の終わりや、はっとした時間に身近な人たちに読み聞かせてもらいたい作品。親子で共有できるお話を声にのせて伝えたい。

稲田和子 再話
岡井悦子 再話
多田ヒロシカント ことば社 (全3巻)

『すずめのくつした』

靴下工場の息子のアンガスとすずめのブルースは大の仲良し。ある寒い冬の日、震えるブルースのために、アンガスは父さんの工場ですずめの足に合わせたちっちゃな靴下を編む。靴下は大評判になり、アンガスはブルースの友達にも次々と靴下を編んでゆく。

ジョージ・セルデン 文
ピーター・リッパマン 絵
光吉柳子 訳 大日本図書

『こいぬがうまれるよ』

「いいことおしえてあげようか？」こいぬをもらうことになった「わたし」のわくわくした思いに引き込まれてお話が始まる。こいぬが誕生する時の臨場感や、母さん犬との深い絆、日々の成長を小さな女の子の言葉で綴った写真絵本。

ジョアンナ・コール 文
ジェローム・ワクスラー 写真
つばいいくみ 訳 福音館書店

『ピーナッツなんきんまめらっかせい』

まめがなぜ地中に?地中に実をつける落花生の不思議や疑問が解ける楽しい科学絵本。実物のように描かれた絵が落花生の成長を明らかにしてくれる。落花生の成長が繰り返し楽しめるしかけや、好奇心をくすぐる表現が魅力的。

こうやすむい 文
中島睦子 絵 福音館書店

『ロバのシルベスターとまほうの小石』

ロバのシルベスターは望みがかなう魔法の小石を見つけるが、ライオンに出会い、とっさに自分が岩になるように願ってしまう。父さんと母さんは必死に探し回る。思いがけない場所でシルベスターはロバに戻り、親子は再会する。驚きと喜びにあふれた物語。

ウィリアム・スタイグ 作
セテ・ティビ 訳 評論社

ほかにもこんな本がおすすめです

●小学校1・2年

『アボカド・ベイビー』…ジョン・バーニンガム 作 青山南 訳 ほるぷ出版

『きいろいばけつ』…もりやまみや 作 つちだよしはる 絵 あかね書房★

『こぶたのピクルス』…小風さち文 夏目ちさ 絵 福音館書店★

『ジョジョのパンやさん』…岸田裕子 作 中谷千代子 絵 あかね書房

『しっばいにかんぱい!』…宮川ひろ 作 小泉のみ子 絵 童心社★

『しょうたとなつと』…星川ひろ子 星川治雄 写真文 小泉武夫 原案 監修 ポプラ社★

『たんだのたんけん』…中川李枝子 作 山脇百合子 絵 Gakken★

『どろんここぶた』…アーノルド・ローベール 作 岸田裕子 訳 文化出版局

『へっちゃらトーマス』…パット・ハッチンス 文・絵 小宮由 訳 大日本図書

小学校3・4年

『がんばれヘンリーくん』

ヘンリーくんは小学3年生の男の子。ある日、ひろったがりがりのやせ犬アバラーといっしょに、次々にゆかいな事件をまきおこす。子どもたちの日常を生き生きと描いた楽しいお話。

ペパリイ・クリアリー 作
松岡享子 訳
ルイス・ダーリング 絵
Gakken★

『百まいのドレス』

ワンダは貧しく、いつも同じ服を着ている女の子。ドレスを百枚持っていると言ったためからかわれる。ワンダが遠くに引っ越して行った後、教室には百枚のドレスの美しい絵が飾られていた。マデラインはからかったことを後悔して…。

エレナー・エスティス 作
ルイス・スロポキン 絵
石井桃子 訳 岩波書店

『エンザロ村のかまど』

アフリカ・ケニアのエンザロ村には、どこの家にも日本人が伝えたかまどがある。遠くはなれたアフリカの村に、なぜ、かまどがあるのだろうか?日本とケニアの不思議なつながりを、村の人たちの住まいや食事、暮らしぶりを交え伝える絵本。

さくまゆみこ 文
沢田としき 絵
福音館書店

『ろくべえまற்றろよ』…灰谷健次郎 作 長新太 絵 文研出版

『くまの子ウーフ』…神沢利子 作 井上洋介 絵 ポプラ社★

『1つぶのおこめ』…デミ 作 さくまゆみこ 訳 光村教育図書

『ことばあそびうた』…谷川俊太郎 詩 瀬川康男 絵 福音館書店★

●小学校3・4年

『100万回生きたねこ』…佐野洋子 作・絵 講談社

『あたまたをつかった小さなおばあさん』…ホープ・ニューウェル 作 松岡享子 訳 山脇百合子 画 福音館書店★

『ちびドラゴンのおくりもの』…イリーナ・コルシジュン 作 酒寄進一 訳 伊東寛 絵 国土社

『黒ネコジェニーのおはなし』…エスター・アペリル 作・絵 松岡享子 訳 張替恵子 訳 福音館書店★

『セロひきのゴーシュ』

町の楽団のセロひきのゴーシュは演奏がへた。音楽会をひかえ毎晩猛練習をしていると、猫やかっこうなどが訪ねてくる。動物たちとの奇妙な練習をするうちにみるみる上達して…。作品が持つ独特の世界観を表現した挿絵も魅力。

宮沢賢治 作
茂田井武 絵
福音館書店

『くまのパディントン』

南米のペルーからロンドンにやってきたくまのパディントンは、ブラウンさん一家と暮らし始める。好奇心旺盛で天真らんまん。行動すると必ず騒動を起こすパディントンは、一家のかけがえのない一員になっていく。

マイケル・ボンド 作
ペギー・フォートナム 画
松岡享子 訳
松岡書店★

『ポリーとはらぺこオオカミ』

おなかをすかせたオオカミがポリーを食ってやろうと、「赤ずきん」や「三びきの子ブタ」などをまねして奮闘するが、ポリーの方が一枚うわてで、いつもやりこめられる。まぬけなオオカミと賢いポリーのゆかいなお話。

キャサリン・ストー 作
掛川恭子 訳
マージョリー＝アン・ワッツ 絵
岩波書店★

『カミツギガメはわるいやつ?』

日本にはいなかったカミツギガメが、印旛沼やその周りで増えている。かみつくなどの被害を減らそうと捕まえられるが、外国から人間によってつれてこられたカミツギガメは、わるものなのか。カミツギガメの暮らしを観察した写真絵本。

松沢陽士 写真・文
フレイベル 館

●小学校3・4年

『ながいながいペンギンの話』…いぬいとみこ 作 山田三郎 絵 理論社

『なんでもた大会社』…ニコラ・ド・イルシンプ 作 末松冰海子 訳 三原紫野 絵 日本標準

『びりっかすの神さま』…岡田淳 作・絵 偕成社

『小さなバイキングビッケ』…ルーネル・ヨンソン 作 エーヴェット・カールソン 絵 石渡利康 訳 評論社★

『イチからつくるカレーライス』…関野吉晴 編 中川洋典 絵 農山漁村文化協会

『車のいろは空のいろ』…あまんきみこ 作 北田卓史 絵 ポプラ社★

『ちびっこカムのぼうけん』…神沢利子 作 山田三郎 絵 理論社

『チョコレート戦争』…大石真 作 北田卓史 絵 理論社

『菜の子先生がやってきた!』…富安陽子 作 YUJI 画 福音館書店★

『ぼくは王さま』

王さまはたまごやきが大好き。ある日、王子さま誕生のお祝いに、国中の人にたまごやきをごちそうしようと「ぞうのたまご」を探させることになったが…。「ぞうのたまごのたまごやき」他、王さまがくりひろげるゆかいなお話4話を収録。

寺村輝夫 作
和田誠 絵
理論社

『小さなスプーンおばさん』

ある朝、おばさんが目を覚ますと、ティースプーンくらいに小さくなっていった。スプーンおばさんは頭を動かして、時には小さな体を利用してユーモラスに困難を乗り越えていく。

アルフ・アロイセン 著
大塚勇三 訳
ビョールン・ペルイ 絵
Gakken★

『ものぐさトミー』

トミー・ナマケンボの家は電気じかけ。ただ立っているだけで、機械がなんでもやってくれる。ある日、嵐がやってきて電気が止まったらさあ大変!抱腹絶倒のお話。

ペーン・デュボア 文・絵
松岡享子 訳
岩波書店

『スーホの白い馬』

モンゴルの楽器「馬頭琴」の由来を伝える民話絵本。貧しい羊飼いの少年スーホの白馬が競馬で優勝するが、白馬は殿様にとりあげられてしまう。白馬はスーホのもとへ命からがら逃げ帰るが…。モンゴルの風景が横長の画面をいかして描かれている。

大塚勇三 再話
赤羽末吉 画
福音館書店

●小学校3・4年

『子ブタシーブビッグ』…ディック・キング＝スミス 作 木原悦子 訳 メアリー＝レイナー 絵 評論社

『風にのってきたメアリー・ポピンズ』…ノットラ・トラヴァース 作 林谷吉 訳 岩波書店★

『しずく的首飾り』…ジョーン・エイケン 作 猪熊葉子 訳 ヤン・ピアンコフスキー 絵 岩波書店

●小学校5・6年

『くろグミ団は名探偵』…ユリアン・プレス 作・絵 大社玲子 訳 岩波書店★

『黒ねこサンゴロウ1』…竹下文子 作 鈴木まもる 絵 偕成社★

『どうしてかわかる?世界のなぜか昔話1』…ジョー・ジ・ジャン 文 ビーター・シス 絵 福本友美子 訳 晶文社★

『ドリトル先生アフリカゆき』…ヒュー・ロフティン 作・絵 井伏鱒二 訳 岩波書店★

『大どろぼうホッツェンブロッツ』

おばあさんの大事なコービーひきを盗んだ大泥棒を、孫のカスパールと友人のゼッペルが追跡。魔法使いや妖精も登場し、少年たちが知恵を絞って大泥棒と渡り合う。テンポが速く、ユーモアたっぷりの冒険物語。

オトフリート・ブロイスラー 作
中村浩三 訳
偕成社★

『時計つくりのジョニー』

ジョニーは手先が器用で、ものをつくるのがじょうずな小さな男の子。ある日、「大時計をつくらう」と思い、親や教師にバカにされ、同級生に邪魔されても、ジョニーは懸命に時計づくりに取り組む。

エドワード・アーディゾーニ 作
阿部公字 訳
こぐま社

『ゆかいなホーマーくん』

アメリカの小さな町に住むホーマーくん。ペットのスカンクと一緒に強盗を捕まえたり、機械が故障してたくさんさんのドーナツができてしまったり。思いがけない事件が次々と起こり、ワクワクドキドキ感満載の6編を収録。

ロバート・マックスロスキー 作
石井桃子 訳
岩波書店

『イギリスとアイルランドの昔話』

日本でも有名な「三びきの子ブタ」「ジャックとマメの木」など、イギリスの昔話22編と、ばけものが出る教会で仕立て物をしあげてほうびをもらう「元氣な仕立て屋」など、アイルランドの昔話8編が入った昔話集。語りにも向いている。

石井桃子 編・訳
J.D.バトン 画 福音館書店

『火曜日のごちそうはヒキガエル』

ミミズクにつかまってしまったヒキガエルのウォートン。自分が誕生日の日のごちそうだと知り、逃げ出す計画を立てるが…。心やさしいヒキガエルと、ひとりぼっちのミミズクとの心の交流を描く。

ラッセル・E・エリクソン 作
ローレンス・ディ・フィオリ 絵
佐藤涼子 訳
評論社★

『長くつ下のピッピー』

ピッピーは世界一力持ちな女の子。次から次に奇想天外なことを思いつき、すぐに行動してはひと騒動起こすが、その無邪気さや心の温かさが周りの人々に受け入れられる。ピッピーの活躍を描いた三部作の一作目。

アストリッド・リンドグリーン 作
大塚勇三 訳 桜井誠 絵
岩波書店★

『版画のしらうた』

野原の小さな生き物たちの思いを詩にした本。版画の文字と挿絵は、絵と言葉が一体となりダイナミックな詩の世界を表現している。彼らの個性が光る、生きる喜びにあふれた様々な詩は、ぜひ声に出して楽しんでほしい。

くどうなおこ 詩
ほてはまたかし 画
童話屋★

『魔女の宅急便』

魔女のキキは、13歳になる年に親元を離れ、知らない町で独り暮らしを始める。ほうきで空を飛んで届け物をする宅急便屋となり、変わった依頼を受けながら町になじんでいく。キキと黒猫のジジの一年間を描いた物語。

角野栄子 作
林明子 画 福音館書店★

『子どもに語る日本の昔話』

その昔、田畑裏を囲んで語られたような味わいのある昔話。地域特有の語り伝え方や方言も入り、一日の終わりや、はっとした時間に身近な人たちに読み聞かせてもらいたい作品。親子で共有できるお話を声にのせて伝えたい。

稲田和子 再話
岡井悦子 再話
多田ヒロシカント ことば社 (全3巻)

『だれも知らない小さな国(コロボックル物語1)』

小学3年生の頃、秘密の遊び場で見かけた小指くらいの小さな人。時が過ぎ、またそこを訪れたことで、僕は彼らと再会する。もしかしたらコロボックルがそばにいるかもしれない、そんな気がするようなファンタジー。

佐藤さとる 作
村上勉 絵 講談社★

『二分間の冒険』

小学5年生の悟は、運動場のすみで黒猫のダレカに出会い、異世界に連れて行かれる。そこは子どもだけが住み、電に謎かけと剣で戦わなければならない世界だった。元の世界に戻るため、悟はこの世界で一番たしかなものを探す。

岡田淳 作
太田大八 絵 偕成社

『冒険者たちガンバと15ひきの仲間』

ドブネズミのガンバは島ネズミを苦しめるイタチのノロイ一族と戦うため、15匹の仲間と夢見島に向かう。仲間同士助け合い、知恵と勇気をふりしぼって困難を一つ一つのりこえていく。

斎藤孝夫 作
数内正幸 画 岩波書店★

『魔女の宅急便』

魔女のキキは、13歳になる年に親元を離れ、知らない町で独り暮らしを始める。ほうきで空を飛んで届け物をする宅急便屋となり、変わった依頼を受けながら町になじんでいく。キキと黒猫のジジの一年間を描いた物語。

角野栄子 作
林明子 画 福音館書店★

『ルドルフとイッパイアッテナ』

ひょんなことから見知らぬまちに来てしまった猫のルドルフ。出会ったボス猫のイッパイアッテナは少し怖いけれど頼れる存在で、特技は人間の文字を読むことだった。ルドルフはノラ猫生活の知恵を学びながら、文字も学ぶことに。

斎藤洋 作
杉浦範茂 絵 講談社★